



真っ白な怒り。

凶気の桜

窪塚洋介 / 原田芳雄 / 江口洋介

高橋マリ子 RIKIYA 須藤元気 速水典子 成瀬正孝 峰岸徹 本田博太郎

監督 園田賢次 原作 園田賢次「凶気の桜」ヒキタクニオ [新潮社刊] 音楽 K Dub Shine

製作 黒澤清 / 早河洋 企画 遠藤茂行 / 木村純一 プロデューサー 園田賢次 / 菅宮誠 / 園部純男 脚本 丸山昇一 撮影 仙元誠三 照明 井上幸男 美術 佐々木尚
録音 柴山申広 編集 園田賢次 / 大畑英亮 製作協力 セントラル・アーツ 製作 園家映 / テレビ朝日 / 宮崎ビデオ 配給 園家映 ©2002「凶気の桜」製作委員会

時代をエグる映画が放たれる!!

純粹で凶暴な、青春。

「GO」から1年—— 窪塚洋介は初めて、 企画段階から映画製作に参加した。

原作「凶気の桜」(ヒキタクニオ著・新潮社刊)と出会ったのは「GO」の撮影中のこと。主人公・山口の怒りは、正にその当時の窪塚洋介自身が持っていた疑問や不満であった。それが生まれてくる過程で、出会った人々がいた。ストリートのリアリティーから生まれる言葉で己を叩きつけるHIP HOP。その伝説のグループ・キングギドラのリーダー、K DUB SHINE。彼らのPVを監督し旧知の仲である園田賢次。音楽と映像と物語が揃った時、窪塚洋介は“今の日本”の映画が作りたくなった。思いっきりヤバイ映画でありながら、エンターテインメントな作品を作る。東映は賛同し準備は進んだ。

そして、その現場には異能・多彩な若きアーティスト・パワーが結集した!窪塚洋介を始めとして、ミラノコレクション→オーストラリア映画デビューの国際派新人・RIKIYA。1人アメリカに武者修行に行った総合格闘技界の異端児・須藤元氣。モデル・CMで活躍、10~20代の女の子の圧倒的的支持を得る高橋マリ子。更に、“怖い大人”が参加。「スワロウテイル」「アナザヘヴン」「竜馬の妻とその夫と愛人」等個性的な映画出演歴を持つ江口洋介。曲者役者本田博太郎。そして、数々の映画・テレビ・CMで、その存在感と貫禄を存分に発揮し続けている原田芳雄。彼らが強烈にプロの臭いを発散させる大人を演じきる!音楽はもちろんK DUB SHINE。監督は園田賢次。今、正に問題作が誕生しようとしている!!

渋谷のストリート、若きナショナリストの 結社が誕生した。

山口(窪塚洋介)、市川(RIKIYA)、小菅(須藤元氣)の3人は、特注の白い戦闘服を身にまとい、半端な不良どもを狩っていく。

それは、自分たちの育った渋谷の街から、汚いゴミを掃除することでもあった。不良たちは反応し、彼らの存在を受け入れ、殴り殴られる日々は街に溶け込んでいた。右翼系の暴力団・青修同盟の会長の青田(原田芳雄)は3人を面白がり、飯を食わせたり、中古四駆車を与えたりと可愛がる。山口も青田を慕い、市川、小菅は青田に紹介された若頭の兵藤(本田博太郎)や客分の“消し屋”三郎(江口洋介)に本職(プロ)の匂いを嗅ぎ、次第に影響を受けるようになる。ある日、乱闘の最中、山口は景子(高橋マリ子)という凛とした女子高生に出会う。

山口、市川、小菅はそれぞれに変わっていく。

ある日、3人がドラッグを捌いているというクラブを襲撃したのをきっかけに、青修同盟と対立する小西組との抗争が始まってしまふ。青修同盟内の陰謀にまでも巻き込まれ、生きる場所を奪いあう生存競争に若い3人は飲み込まれてゆく——。

凶気の桜

ガキから大人になる一瞬、鮮烈なる通過儀礼。

10月19日(土)よりロードショー

東西線木場駅・イトーヨーカドー3F・駐車場完備
109シネマズ木場
定員入替制 03(5683)0109